

科目名称：	デッサンⅡ	
担当者名：	堀 一浩	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
『デッサンⅠ』を単位修得した学生、または同等程度の実技力を有する学生を対象に、『デッサンⅠ』の発展的な内容を実施し、より高次の実技デッサン力修得を目的とする。また、基礎からの理解を再検証し、発展応用的な描写力の習得の基礎を固めることに重点を置いた内容を展開する。 [※必ずしも『デッサンⅠ』を受講していなくとも受講は可能である。]		
授業の達成目標・到達目標		
デッサンは3次元の構造を2次元の支持体（画用紙など）に描画素材（鉛筆・木炭など）を用いて表現する技法である。よって、3次元の成り立ち、また支持体や描画素材の特性を理解し、表現できる技術の修得が重要であり、様々なモチーフ、素材、表現方法を駆使し、発展的なデッサン力を身につけることを目標とする。授業はデッサン課題を掲げて学習ポイントを事前に理解し、画用紙に鉛筆デッサンで理解したことを描写することで授業を展開する。その課題が完成したら提出し、講評を行うことで達成度を確認する。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、美術を通して様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、美術を通して、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	美術の分野において基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用し表現していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)					0
美術DP(3)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業への参加	課題の内容を理解して自分に足りないものを考えながら積極的に取り組む。	課題の内容を理解して興味を持って取り組む。	課題の内容を理解できるように努力している。	課題への理解と興味が低く、意欲的な取り組みが不足している。
表現方法の習熟	画材の特性を理解し、表現方法に見合った使い方を工夫できる	画材の特性と適切な表現方法を理解し、使い方に工夫を試みる	画材の特性と表現の方法に理解を深める	画材への理解が低く、表現に活用する方法への工夫の不足している
作品の完成度	自己の目標を明確にし、形態・色彩・質感・空間が高い技術で表現されている。	自己の長所・短所を理解し、形態・色彩・質感・空間が破綻なく表現されている。	形態・色彩・質感・空間が表現できている。	形態・色彩・質感・空間が表現できていない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 デッサンの基礎の確認①/ティッシュペーパーの箱、缶を描くことにより理解度・習熟度の確認をする。	デッサンの基礎をテキストで調べておき、確認する。線画を完成させておく。	30分
第2回 デッサンの基礎の確認②/ティッシュペーパーの箱、缶を描くことにより理解度・習熟度の確認をする。	明暗や質感の描きわけやを理解しておく。	30分
第3回 デッサンの基礎の確認③/ティッシュペーパーの箱、缶を描くことにより理解度・習熟度の確認をする。	宿題：【ティッシュ箱・缶デッサン】を完成させること。	90分
第4回 完成したデッサンの講評とディスカッションを行う。植物・野菜を観察してデッサンする。①	自然物の持つ構造や質感を理解しておく。	30分
第5回 植物・野菜を観察してデッサンする。②	宿題：デッサンを完成させること。	90分
第6回 自画像①/自分の顔写真を元にデッサンを行う。	デッサンにふさわしい明暗や角度、構図などを考えながら写真を用意しておく。	30分
第7回 自画像②/自分の顔写真を元にデッサンを行う。	宿題：デッサンを完成させること。	90分
第8回 静物デッサン①/様々なモチーフを組み合わせてデッサンをする。	デッサンにふさわしいモチーフを、質感や色、形などを考えながら選んでおくこと。	30分
第9回 静物デッサン②/様々なモチーフを組み合わせてデッサンをする。	これまで学んできたことの理解を整理し、使いこなす方法を研究すること。	30分
第10回 静物デッサン③/様々なモチーフを組み合わせてデッサンをする。	これまで学んできたことの理解を整理し、使いこなす方法を研究すること。	30分
第11回 静物デッサン④/様々なモチーフを組み合わせてデッサンをする。	宿題：デッサンを完成させること。	90分
第12回 デッサンの考え方について美術史とも照らしながら考える。/実例を示しながらデッサンの自作への応用を考える。	過去の美術作品やデッサンを下調べしておく。	30分
第13回 写真模写①/雑誌の写真を模写することによって、人体の構造や明暗などを理解する。	デッサンにふさわしい明暗や角度、構図などを考えながら写真を用意しておく。	30分
第14回 写真模写②/雑誌の写真を模写することによって、人体の構造や明暗などを理解する。	宿題：デッサンを完成させること。	90分
第15回 課題作品講評（授業内で作品を講評しながら理解を深める：グループディスカッション）	自分の作品を客観的に振り返り、理解を整理すること。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
各課題終了時に設定された提出日に全ての課題を提出することが、単位修得の必須条件である。この完成度、理解度を課題から判断し、80%で評価する。また、積極的な制作および課題探究内容を20%で評価する。

課題に対してのフィードバック

課題は、評価ポイントを明確に伝えたあと返却する。

教科書・参考書

鉛筆デッサン基本の「き」 スタジオ・ものくろ一む著 (株)ホビージャパン